第４学年　国語科学習指導案

日　時　　平成 21 年 10 月 9 日（金）5 校時
児　童　　男 5 名　女 4 名　計 9 名
指導者　　佐々木　宏　記

１　単　元　名　　場面や様子を想像して読み、伝わるように工夫して音読しよう

２　教　材　名　　「ごんぎつね」（光村図書）

３　単元について

（１）児童について

４年生は、「三つのお願い」で、描写から場面ごとの登場人物の気持ちを想像して読み取り、音読の基礎的な学習をしている。「一つの花」では、会話文・情景描写・行動からイメージ豊かに読み取り、“読み癖”を矯正しつつ音読する学習をしてきた。また、いくつかの言葉や文を関連付けて想像を働かせて読み取る学習も行ってきた。とはいえ、まだまだ叙述から描かれていることを想像して考えるという態度が身についているとは言い難い。思い込みがあったり連想による飛躍があったりして作品世界とかけ離れた読み取りをしていることがある。文や言葉を手がかりに想像するということを柱にして指導している段階である。

音読は、普段会話しているように読むということを主に指導してきた。それがうまくできない要因は、文頭の音程を低く出てしまうこと、助詞を伸ばしてしまうこと、そして文末が文意とは無関係に強調されていることにある。息遣いに留意させることで、文末の強調は改善されつつある。文頭を高く出すことも、適宜意識化させることで少しずつ改善されてきた。しかし、助詞を不用意に伸ばさないという点については、助詞の前の名詞の音節一つ一つをしっかり息を出して音声化しなければならず、今の段階では難しい。しかし、これらのことがある程度改善されることで、意味内容を音声によって表現することに前進が見られてきた。

想像豊かに読み取るためには、様子を表す表現から心情を想像したり、心情を表す表現から様子を想像したりするようにしてきた。冒頭に述べたように、叙述から得られる情報から遊離しない範囲での想像が十分にできているわけではない。しかし、想像の根拠となる叙述を意識させることで、言葉の重要性や多義性に気づき、想像することの楽しさを感じ始めている段階である。個人差も大きいので、実態に応じてゆっくり学習を進めているところである。

（２）教材について

この単元は、学習指導要領第３・４学年の「読むこと」の内容の「ウ　場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら詠むこと」「エ　読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくこと」を受けて設定した単元である。

教材「ごんぎつね」は、主人公であるごんと兵十の思いのズレが悲劇をもたらすという作品である。登場人物の行動と心情を読み取ることが重要となる。まず、ごんの行動を表す述語に着目する

ことでごんのいたずら好きの性格を読み取り、兵十をはじめとする村人の会話から、ごんの心情を想像することができる。さらに、時間の経過を表す描写が巧みであったり、色による描写により場面の情景を鮮やかにイメージ化させたりする効果があり、叙述に即して想像しながら形象を読み取るには最適の教材の一つといえる。

（３）指導にあたって

この単元の言語活動の柱は、音読発表会である。音読は、確かな理解に基づいた表現でありたいし、自他の表現の良さを認め合えるものとしたい。そのためには、いきなり音読記号を付けるのではなく、叙述に即して読み取った内容を書き込み、その後に音読記号を付すという段階を踏む。理解したことを表現するという意識をもたせるためである。一方、全てに書き込みができるというわけではない。どう表現したらいいか試行錯誤しながら音読することで、場面の様子や心情を理解し書き込む場合もある、これは、表現しようとすることで理解するという流れになる。この二つを併用することで理解と表現を一体化させるという意識をもたせたい。

各場面の読み取りの中での音読や最後の音読発表会の中で、聞き手の子どもたちが感じ取ったイメージを発表する。音読して表現しようとしたことと、聞き手の感じたことが一致する場合もあれば異なることもあるだろう。いずれにしろ、どのようなイメージを表現したいのかを叙述に即して検討させたい。その結果として、登場人物の様子や気持ちまた場面の様子を豊かに読めるように授業構成をする。

全体で読み取りと音読の仕方を検討する前に、書き込みを個人学習で行う。ただし、適宜グループで書き込み内容を交流させることで、何を書いたらいいか戸惑っている子どものヒントとなるようにする。また、各場面の学習課題につながる部分にサイドラインを引かせた上で書き込みをさせる。

本単元では、音声化するために文意を読み取ろうとしつつ、理解したことを音声表現しようとする、理解と表現を関連付けた指導を通して、これまで学習してきた力を確かなものとし、より一層伸張させたい。

４　単元の目標と仮説との関わり

（１）目　標

○情景を思い浮かべたり、登場人物の心情を感じ取ったりしながら、音読しようとする。

[関心・意欲・態度]

◎場面の移り変わりに伴い情景や登場人物の心情が変化する様を、叙述をもとに想像しながら読み自分の考えをまとめ、交流しながら読みを広げたり深めたりすることができる。

[読むこと（ウ）]

○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ア）]

（2）研究仮説との関わり

手立て１との関わり

＜考える力＞

・重要語句（行動・様子・会話の表現など）に着目し、書き込みしながら読むことで、叙述に即して場面の移り変わりや心情を想像して読み取ることができるであろう。

（能力系統表 12 と 13）

＜交流する力＞本時との関わり ・共通点や相違点を明らかにしながら話し合ったり音読したりするという、二つの表現方法を関連付けることで、豊かな読みの交流を図ることができるであろう。（能力系統表 28）

手立て２との関わり

・音読発表会に取り組むことで、音読による表現の仕方を考えることで読みが深められ、一方、文意の理解が深まることで効果的な音読ができるようになるだろう。

5　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・読み取ったことを効果的に音読しようとするとともに、音読の工夫をするために想像豊かに読み取ろうとしている。	・重要語句に着目し、他の場面で読み取ったことと関連付けて想像して考えを書き、友達の発表に学んで、考えを修正したり補強したりしている。	・登場人物の様子や気持ちあるいは場面の様子を間の取り方や抑揚の変化により音読により表現している。

6　単元指導計画と評価計画

段階	時	本時の目標	○具体の評価規準 ・支援を要する児童への手立て
みとおす	1	・全文を通読して感想交流をし、音読発表会へ向けて学習意欲を高めることができる。	○学習の見通しを持ち、進んで学習を進めようとしている。（話し合い・発言） ・学習方法を丁寧に教え、やるべき課題を明確にさせる。
	2	・書き込みしながら読み取り、それを生かして音読の工夫をする学習の見通しを持つことができる。	
ふかめる	3～5	・場面の移り変わりや登場人物の様子や心情を読み取り、どのように音読すると効果的かを考えて書き込みをすることができる。	○課題解決につながる重要語句を見つけ、既習内容と関連付けようとしながら読み取ろうとしている。（書き込み） ・場面全体から感じ取ったり、直観的に読み取ったりしたことに関わる部分を見つけさせ、重要語句を明確にして考えさせる。

<table>
<tr><th>段階</th><th>時</th><th>本時の目標</th><th>○具体の評価規準
・支援を要する児童への手立て</th></tr>
<tr><td rowspan="6">ふかめる</td><td>6
・
7</td><td>・各自が読み取ったことが音声で表現できるように音読練習することができる。</td><td>○いくつかの読み方をし、効果的な表現の仕方を探し出そうとしている。
（音読）
・普段の会話の仕方に置き換えさせて、音読練習させる。</td></tr>
<tr><td>8</td><td>・音読や感想交流を通して、ごんのいたずら好きの性格と境遇を各自の力に応じて読み取ることができる。</td><td rowspan="5">○友達の音読や発言から学び、自らの読みを広げたり深めたりしたり、音読の工夫をしようとしている。（音読・発言）
・音読の仕方や読み取りを、適宜グループで話し合わせることで、自らの考えを持たせるようにする。</td></tr>
<tr><td>9</td><td>・音読や感想交流を通して、村人へ強い関心を抱いており自省的なごんについて各自の力に応じて読み取ることができる。</td></tr>
<tr><td>10</td><td>・音読や感想交流を通して、ごんの初めの償いの行為が仇となるまでの心情の変化を各自の力に応じて読み取ることができる。</td></tr>
<tr><td>11</td><td>・音読や感想交流を通して、償いを兵十がどう受け止めているか気にしているごんの心情の揺れ動きを各自の力に応じて読み取ることができる。</td></tr>
<tr><td>12
（本時）</td><td>・音読や感想交流を通して、ごんと兵十の気持ちのズレに気づきながら、物語の悲劇的な結末を、各自の力に応じて読み取ることができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ひろげる</td><td>13</td><td>・読みの深まりを生かして音読練習することができる。</td><td rowspan="2">○最初とは違った思いのある音読ができ、友達の発表のよさを適切に語っている。（発言）
・自信をもって臨めるようにするために、ポイントを絞って音読練習させる。</td></tr>
<tr><td>14</td><td>・音読発表会を開き、工夫をして音読し合い、相互に適切に評価することができる。</td></tr>
</table>

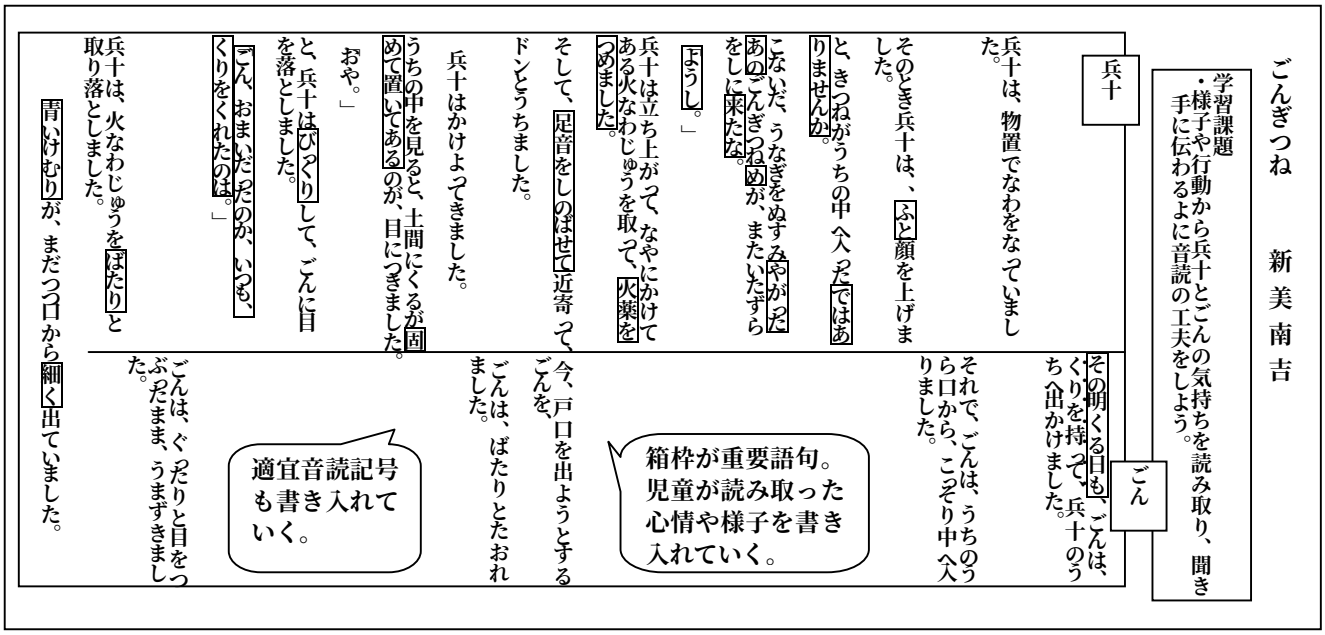
7　本時の指導

（1）目　標

・兵十の言動からごんと兵十の気持ちのズレに気づき、物語の悲劇的な結末を叙述に即して想像豊かに読み取り、効果的に音読表現しようとすることができる。

（2）展　開

段階	・学習活動　○主発問	・期待する反応 ○教師の支援	評価・準備物
つかむ（5分）	・前時の学習を想起する。 ○前の学習場面を音読しましょう。（指名読） ・本時の学習課題を確認する。 課題 様子や行動から兵十とごんの気持ちを読み取り、聞き手に伝わるように音読の工夫をしよう。	・ごんの償いに気づいてくれないことにがっかりしている。 ○主に兵十の様子と行動を丁寧に読むことで、ごんと兵十の思いのズレが浮き彫りにされることを確認する。 ○間取り方と速さの工夫を意識させる。	・前時で使用した紙版書
ふかめる（34分）	・学習場面を音読する。 ○聞いている人は、次にどこでどんな発表をするか確かめながら聞いてください。（指名読） ・学習課題に基づいて、各自が読み取ったことを交流し、音読の工夫をする。 ○まず、兵十がごんを撃つまでの所までで読み取ったことを発表しましょう。 ○できるだけ、友達の発言に関係付けて発言してください。 ○ごんに対する兵十の気持ちが伝わるように音読してみましょう。 ・個人で音読練習した後、音読発表をする。 ・音読をして気づいたことを発表する。 ○ごんが撃たれた後で、読み取ったことを発表しましょう。 ○兵十の様子と会話文から、ごんの気持ちも想像してみましょう。 ○言葉も出ないほどの兵十の驚きと後悔が伝わるように音読してみましょう。 ・個人で音読練習した後、音読発表をする。 ・音読をして気づいたことを発表する。 ○「青いけむり」という終わり方は、読み手にどのような印象を与えているでしょう。	・書き込みをした教材文を見ながら、友達の音読を聞く。 ○読み取りの根拠を明らかにして発言させる。 ○ポイントとなる所では、わずかな読み取りの違いを見つけ、立ち止まって考えさせる（「入ったではありませんか」「ぬすみやがった」「あのごんぎつねめ」「また～来たな」「ようし」）。 ・憎いと思っている。 ・恨みを持っている。 ○間の取り方、速さを変えて、効果的な音読の仕方を工夫させる。 ○「くりが固めて置いてある」から兵十が全てを悟り、「ばたりと取り落とし」から衝撃と悔恨の思いを想像させる。 ・何ということをしてしまったのか。 ・言葉もないぐらいのショック。 ・兵十は分かってくれたんだ…。 ○兵十が憎しみを抱いていた時とは、間の取り方と速さが変わることに気づかせる。 ・やりきれない思い。 ・悲しさ	・教材文の紙版書 **具体の評価規準** ・課題解決につながる重要語句を見つけ、登場人物の様子や気持ちを想像しながら読み取り、間の取り方や早さを工夫して音読しようとしている。 （発言・音読） **支援を要する児童への手立て** ・友達の発言をもとに登場人物の様子や気持ちを感じ取らせ、思いを込めて音読させる。

まとめる（6分）	・学習のまとめをする。 ○場面全体を音読してみましょう。 ○兵十の気持ちが大きく変わる所を効果的に表現して見ましょう。 ・授業感想を発表する。 ・次時の学習の予告をする。	○音読が豊かに変化したところを指摘し、表現と理解が一体のものであることを確認させる。 ・間の取り方と速さを変えることで表現効果が現れることを確認する。	

8　板書計画